

平成 29 年度 グループ 2 ユニット B 研究進捗状況

那須英勝（ユニットリーダー，龍谷大学文学部教授）

(1) プロジェクトにおけるユニットの研究内容

（調書様式Ⅲ－1「②研究内容」とⅢ－2「全年度に亘る」の当該ユニットの部分）

調書様式Ⅲ－1「②研究内容」

グループ 2 ユニット B は、「多文化共生」が求められる現代社会において日本仏教が直面する課題を明らかにするために、宗教間対話、宗教間教育、現代日本仏教とジェンダーに関する研究を行う。

調書様式Ⅲ－2「全年度に亘る」（平成 27 年度欄の初め）部分

グループ 2 ユニット B 「多文化共生社会における日本仏教の課題と展望」

本ユニットは、「多文化共生」が求められる現代社会において日本仏教が直面する課題を明らかにするために、宗教間対話、宗教間教育、現代日本仏教とジェンダーに関する研究を行う。高田・那須・小原・ウィリアムズ・本多による研究成果を活用して遂行される。

グローバルなレベルで宗教多元化が進み、「多文化共生社会」と呼ばれる現代社会においては、「宗教間対話」（Inter-faith Dialogue）もかつてのように特殊な機会にのみ必要なものではなくなりつつある。また宗教思想の持つ普遍的特質は、信仰や文化を異にする者との対話を通して、多面的な価値観を持つ新たな主体や表現様式を育成していく。本ユニットでは、日本仏教における宗教間対話の先蹤ともいえるべき「宗論」の歴史と伝統をふまえつつ、仏教思想の持つ普遍性を、「宗教的真理の多義性」と「信仰の多様性」といった視点から再検討し、多文化共生社会における宗教間対話と相互理解の可能性を探る。

宗教間対話の必要性への認識が高まりつつあるなかで、宗教間対話の基盤としての「宗教間教育」（Inter-faith Education）の実践は、現在、欧米を中心に世界の諸地域において、当該地域の文化・社会状況の特徴をふまえながら、様々な取り組みがなされている。これに対して、日本における宗教間教育の実践は、まだまだ発展途上の段階にあるのが現状である。本ユニットでは、国際的なコンテキストで実践される宗教間教育の場において、日本仏教がどのような評価をうけているのか検討し、また宗教間教育の実践に日本仏教がどのように貢献できるのか、その可能性を探る。

また、諸宗教間のグローバルな交流が進むなか、日本の女性仏教徒も、伝統的な宗派の垣根を越え、国境を越えた活動を展開しつつある。日本の伝統教団においても女性仏教徒は僧侶、寺族、各種教化団体構成員など多面的に存在するが、国際的な場面において女性が主体的に活動範囲を拡大していく動きがある一方で、伝統教団の内部では周辺化されがちであるという不均衡な状況が見られる。このような現状をふまえつつ、本研究ユニットでは、従来の男性僧侶の活動に偏った仏教研究に対する反省から、近年の宗教研究において重要視されているジェンダーの視点を取り入れた上で、女性の仏教徒の活動に焦点を当て「越境する日本の女性仏教徒」の実像に迫って行く。

(2) 平成 29 年度のユニットの具体的な研究内容

（調書様式Ⅲ－2「年度別の具体的な研究内容（【平成 29 年度】の当該ユニット部分）」）

【グループ 2 ユニット B の計画】

「越境する日本の女性仏教徒」をテーマに、ジェンダー論やポストコロニアル理論からの日本仏教に対する批判的視点も含めて、国内外に展開する日本仏教の比較調査に基づく女性仏教徒の活動に焦点を当てた国際ワークショップを開催する。

(3) 平成29年度の進捗状況・研究成果・根拠データ等（プロジェクト全体に関わる活動は除く）

＜上記（2）「具体的な研究内容」の進捗状況及び達成度＞

- 国際ワークショップ「越境する日本の女性仏教徒」を開催した（研究会一覧②）。本ワークショップでは、日本の国内外で活動する2名の女性僧侶による発表に加え、宗教とジェンダー研究の第一人者である川橋範子氏にコメントをいただいた。それにより、現代の女性仏教徒が経験している越境的な状況や、そうした越境によって生じてくる問題や可能性が具体的かつ理論的に明らかになった。

＜上記（2）以外でユニットとして新規に実施した研究内容の進捗状況及び達成度＞

- 「多文化共生社会における宗教間対話」をテーマにした国際シンポジウムについて、2016年度に開催された同趣旨のシンポジウムからさらに内容を具体的・明確にし、7月12～14日に、「Shin-Buddhist, Muslim, Christian Dialogue, No. 2: Evil and Self-Awareness（第2回「浄土真宗・キリスト教・イスラームにおける比較神学的対話：悪と自己認識」）」をテーマとして、龍谷大学アジア仏教文化研究センター、ドイツのミュンスター大学、アメリカのジョージタウン大学の共催による国際シンポジウムを、3日間にわたってドイツのミュンスター大学で開催した（研究会一覧①）。初日の公開講演では、Prof. Imtiyaz Yusuf（バンコク、マヒドル大学）と Prof. Mouhanad Khorchide（ミュンスター大学）が、「Islam and Inter-Faith Relations」をそれぞれテーマとし、仏教とイスラーム教の対話、イスラームの視点から見た宗教多様性に関する意見交換を行った。これらの公開講演に続く2日間には、浄土真宗、キリスト教、イスラームのいずれかの神学的立場をとる12名の研究者による比較神学の討論会が開かれ、詳細な議論が行なわれた。
- 西ワシントン大学のユサ・ミチコ氏を招聘し、宗教間対話の理論をテーマにした研究会を開催した（研究会一覧④）。特に、宗教多元論的思索を深めたレイモン・パニカー（1918-2010）について、日本ではあまり知られていない、その生涯や思想の意義が議論された。
- 「多文化共生社会における日本仏教の課題と展望」だけでなく、「越境する日本の女性仏教徒」や「宗教間教育」にも関連する問題として、「近代仏教婦人会の諸相」をテーマにした研究会を開催した（研究会一覧③）。近代の仏教婦人会については、現在のところ研究の蓄積が少ない。今回の研究会では、仏教婦人会の黎明期である1880年代の動向を中心に、各地の婦人会やこれと密接に関連した仏教系の女学校の設立をめぐり、各報告者が資料に基づき検証を行った。現代日本仏教がジェンダー的な側面からの多文化共生に関しハードルがあることの背景を、近代史の検証をとって検証できたことは、たいへん有意義であった。
- 研究論文作成の一環として、本多がワーキングペーパーをまとめた（ワーキングペーパー一覧①）。

＜問題点（実施できなかった研究を含む）＞

- 特になし。研究計画どおりの事業が実施された。

平成29年度ユニット研究活動の根拠データ

＜ユニット研究会一覧＞

①2017年度 第1回 国際シンポジウム

■テーマ：悪と自己意識（Evil and Self-Awareness）

■開催日時：2017年7月12日（水）～14日（金）

■場所 : ミュンスター大学

■報告者・報告題目 :

【2017 年 7 月 12 (水) : Public Lectures】

Prof. Imtiyaz Yusuf (Mahidol University, Bangkok):

“Buddhism, Islam and Politics in South- and Southeast Asia”

Prof. Mouhanad Khorchide (Muenster University):

“Islam and Inter-Faith Relations”

【2017 年 7 月 13 (木) : Research Meetings】

[Session (1): Karmic Evil (悪業 akugō), Sin, Suffering, and Predestination]

A Shin-Buddhist Perspective: Eisho Nasu

A Muslim Perspective: Imtiyaz Yusuf

A Christian Perspective: James Fredericks

Responses by Nasu, Yusuf, Fredericks

Replies to Responses

General discussion

[Session (2): Practice (行 gyō), Prayer, and Transformation]

A Shin-Buddhist Perspective: Dennis Hirota

A Muslim Perspective: Maria Dakake (via Skype)

A Christian Perspective: Perry Schmidt-Leukel

Responses by Hirota, Dakake, Schmidt-Leukel; Replies

General discussion

【2017 年 7 月 14 日 (金) : Research Meetings】

[Session (3): Repentance and Forgiveness, Aspiration and Hope]

A Shin-Buddhist Perspective: David Matsumoto

A Muslim Perspective: Mouhanad Khorchide

A Christian Perspective: Peter Phan

Responses by Matsumoto, Khorchide, Phan; Replies

General discussion

[Session (4): The Nature of Human Existence]

A Shin-Buddhist Perspective: Mitsuya Dake

A Muslim Perspective: Junya Shinohe

A Christian Perspective: Bernhard Nitsche

Responses by Dake, Shinohe, Nitsche; Replies

General discussion

Reflection on the conference, opened up by a statement by Leo Lefebure

■参加者 : 70 人 (12 日), 40 人 (13 日), 35 人 (14 日)

■共催 : ミュンスター大学, ジョージタウン大学

②2017 年度 第 1 回 国際ワークショップ

■テーマ : 越境する日本の女性仏教徒

■開催日時 : 2017 年 7 月 17 日 (月) 14 : 00 ~ 17 : 00

■場所 : 龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■趣旨説明：本多 彩（兵庫大学准教授）

■報告者・報告題目：

ヴィクトリア・吉村（浄土真宗本願寺派玄武山正念寺坊守）

“Female, Foreign and in the Firing Line: The Adventures of a British female Buddhist Priest in Rural Japan”

パトリシア・宇宿（サンファナンドバレー本願寺仏教会開教使）

“Transcending Dichotomy: a Perspective from America”

※通訳：川本佳苗（龍谷大学大学院）

■ファシリテーター：那須英勝（龍谷大学教授）

■コメンテーター：川橋範子（名古屋工業大学教授）

■参加者：40人

③2017年度 第1回 国際セミナー

■テーマ：近代仏教婦人会の諸相

■開催日時：2017年7月14日（金）13:30～17:30

■場所：龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者・報告題目：

中西直樹（龍谷大学教授）

「近代仏教婦人会の興起とその歴史的意義」

岩田真美（龍谷大学准教授）

「小野島行勲の関東開教と上毛婦人教育会」

近藤俊太郎（龍谷大学非常勤講師）

「近代大阪における真宗の女子教育—相愛女学校創立をめぐって」

■参加者：21人

■共催：龍谷大学仏教文化研究所、龍谷学会

④2017年度 第1回 学術講演会

■テーマ：レイモン・パニカーと宗教間の対話—クリスチャン・ヒンドゥー・ブディストの立場から—

■開催日時：2017年4月26日（水）13:15～14:45

■場所：龍谷大学大宮学舎北翼2階204

■報告者：ユサ・ミチコ（西ワシントン大学 現代・古典語学科）

■ファシリテーター：那須英勝（龍谷大学教授）

■参加者：88人

■共催：仏教文化研究所、世界仏教文化研究センター

⑤2017年度 第2回 学術講演会

■テーマ：現代ミャンマーにおける女性出家者の生活と役割(Buddhist Nuns' Lives and Roles in Modern Myanmar)

■開催日時：2018年1月26日（金）13:15～14:45

■場所：龍谷大学大宮学舎西翼2階第会議室

■報告者：Thisar Nandi (ティサ・ナンディ) 師（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 (ASAFAS)）

- ファシリテーター：那須英勝（龍谷大学文学部教授）、川本佳苗（龍谷大学大学院研究生）
- 参加者：16人
- 共催：仏教文化研究所、世界仏教文化研究センター

<ユニット関係ワーキングペーパー一覧>

- ①本多 彩「日米の女性僧侶の声―国際ワークショップ「越境する日本の女性仏教徒」―」
- ②Thisar Nandi「Buddhist Nuns' Lives and Roles in Modern Myanmar」

<ユニット研究において協力を得た学外機関・研究者一覧>

- ①Imtiyaz Yusuf (Mahidol University, Bangkok) 【第1回 国際シンポジウム】
- ②Mouhanad Khorchide (Muenster University) 【第1回 国際シンポジウム】
- ③Imtiyaz Yusuf 【第1回 国際シンポジウム】
- ④James Fredericks 【第1回 国際シンポジウム】
- ⑤Maria Dakake 【第1回 国際シンポジウム】
- ⑥Perry Schmidt-Leukel 【第1回 国際シンポジウム】
- ⑦David Matsumoto 【第1回 国際シンポジウム】
- ⑧Mouhanad Khorchide 【第1回 国際シンポジウム】
- ⑨Peter Phan 【第1回 国際シンポジウム】
- ⑩Junya Shinohe 【第1回 国際シンポジウム】
- ⑪Bernhard Nitsche 【第1回 国際シンポジウム】
- ⑫ヴィクトリア・吉村（浄土真宗本願寺派玄武山正念寺坊主） 【第1回 国際ワークショップ】
- ⑬パトリシア・宇宿（サンファナンドバレー本願寺仏教会開教使） 【第1回 国際ワークショップ】
- ⑭川橋範子（名古屋工業大学教授） 【第1回 国際ワークショップ】
- ⑮ユサ・ミチコ（西ワシントン大学 現代・古典語学科）【第1回 学術講演会】

<ユニット研究費（個人分担金含む）による調査一覧>

- 本年度は該当なし。